

平成24年度

事業報告書

学校法人 二本松学院

= 目 次 =

1. 二本松学院全般の取組	4
1-1. 学校法人をとりまく環境と対応	
1-2. 課題と推進計画	
1-2-1. 教育能力及び教育の質の向上	
1-2-2. 海外交流、国際視野	
1-2-3. 学生の支援等の強化	
1-2-4. 効果的な広報の展開	
1-2-5. 多様なニーズに対応する人材育成教育システム	
2. 京都美術工芸大学の取組	6
2-1. 概況	
2-2. 各部門の事業	
2-2-1. 管理運営部門	
2-2-2. 教学部門	
2-2-3. 学術・情報部門	
2-2-4. 学生支援部門	
2-2-5. キャリアサポート部門	
2-2-6. 入試・広報部門	
2-2-7. 地域連携	
3. 京都建築大学校の取組	9
3-1. 概況	
3-2. 各科の報告	
3-2-1. 建築科	
3-2-2. 建築学科	

3-2-3. 専科

3-2-4. 放送大学（教養学部）

3-2-5. 就職

4. 京都伝統工芸大学校の取組 11

4-1. 概況

4-2. 伝統工芸学科充実のとりくみ

4-2-1. 実技・実習等の充実強化

4-2-2. 新「漆工芸専攻コース」の統合

4-2-3. 国際視野で人材育成強化

4-2-4. 資格取得

4-2-5. 大学との調整

4-3. 地域貢献等課外の実践事業

4-3-1. TASK・KYOBI・KASD 合同の学園祭「松葉祭」

4-3-2. 京の伝統工芸新人作品展「第17回卒業修了制作展」

4-3-3. 大日如来座像の制作

4-3-4. 平成24年度 京都府との産官学連携プロジェクト

4-3-5. ブータン王国留学生の受け入れ

5. 二本松学院 財務報告 19

5-1. 財務の概要

5-2. 各計算表

5-2-1. 消費収支計算書

5-2-2. 資金収支計算書

5-2-3. 貸借対照表

1. 二本松学院全般の取組

1-1. 学校法人をとりまく環境と対応

急速なグローバル化、少子高齢化の進展、産業構造や社会動向の大きな変化など、将来への不確実性が一段と高まるなか、京都美術工芸大学の開学など、平成24年度、二本松学院は新たな発展ステージを迎えた。

学院運営に直結する経済環境は、東日本大震災・原発事故にともなう購買意欲の低減、並びに、電力供給の制約、想定を大きく上回る大幅な円高、欧州経済危機を震源とする深刻なリスク波及などを背景に、厳しさが続く雇用情勢、31年ぶりの貿易収支赤字など、予断を許さない状況が続いている。さらに、財政状況が危機的水準に達する中で、本格的な人口減少社会が到来し、国民の多くは社会保障制度の将来に不安を抱くなど、閉そく感が充満する社会環境となっている。

こうした厳しい環境下において、さらなる飛躍を図るために本学院としては、これまで築きあげた伝統と実績を有効に活用し、ユニークで全国的にも優位な3校の持ち味をしっかりと連携させ、各学校運営の強化と真に必要な人材の育成に取り組んでいる。

「学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校」、「即戦力の人材育成による地域や産業発展への寄与」をモットーに、『高度な技術と豊かな人間性を備えた教養ある産業人育成』を目指し、教員、職員、学生一人ひとりの個性や能力、経験を協調させて、魅力と活力のある二本松学院・各校の更なる発展に向け、本年度は次のような取り組みを行なった。

1-2. 課題と推進計画

1-2-1. 教育能力及び教育の質の向上

京都美術工芸大学は開学1年目を計画通り終了することが出来た。また既存の京都建築大学校、京都伝統工芸大学校はこれまでの実績を踏まえ、新しい大学とのコラボレーションにより、産学協同プロジェクトにも取り組むことによりこれまで以上の成果を出すことが出来た。

施設、設備面においても、京都美術工芸大学設置計画に基づき計画的に整備を進めることが出来た。また京都美術工芸大学図書館においては約7100点、3600万円の図書の実質をはかり、3校の教育の質の向上に寄与できた。

1-2-2. 海外交流、国際視野

本年度はフランスでは最高峰と言われるパリの「エコール・ブール国立工芸学校」との連携協定により、京都伝統工芸大学校とエコール・ブール国立工芸学校との交換留学がスタートした。10月から12月にかけて、お互い3週間の交換留学にそれぞれ5名の学生が参加し交流を深めた。

また、両校による合同作品展も11月末からパリで、2月末から京都市内の京都伝統工

芸館で開催された。

さらに、フランス最大の工芸振興組合（約4500社所属）「アトリエ・アール・ド・フランス」との連携では11月にルーブル美術館逆さピラミッドでの作品展示、イタリアでは3月にリッソーネ市現代美術博物館での作品展示を行い、その後ミラノサローネへの出展を招待されるなど大きな成果があった。

京都伝統工芸大学校ではブータン王国からの留学生2名を受入れたが、同国からの要請により期間が2年間に延長され卒業資格が取得できることとなった。

1-2-3. 学生の支援等の強化

学習意欲もあり、かつ成績優秀でありながら、経済的に支援を必要とする平成24年度入学生対象の京都美術工芸大学「学費減免奨学金制度」、京都建築大学校「特別奨学金給付制度」、京都伝統工芸大学校「特別奨学金給付制度」を実施し、選考試験の結果、京都美術工芸大学では6名、京都建築大学校では14名、京都伝統工芸大学校では7名の学生に対しそれぞれ奨学金が支給されることとなった。

南丹市園部町と鉄道、定期バスの利便性に恵まれない地域については、従来から川西池田方面および豊中千里方面にはスクールバスを運行していたが、淀・枚方・長岡京方面についても新たにスクールバスを運行する準備が整い、平成25年度から運行を開始することとなった。

1-2-4. 効果的な広報の展開

各校独自の広報活動から、広報担当者の担当地域・学校訪問の統合を行い、効率的な広報展開ができるよう改善をはかってきたが、さらに広報担当者が二本松学院の3校の特徴的な持ち味を入学対象者に説明し募集に結びつけるように、各広報担当者間の連携強化をはかった。

平成24年度から加入した「大学コンソーシアム京都」での高校と大学を結びつける広報活動、京都の大学「学び」フォーラム、「京都ワンキャンパス」への参画や、第10回京都学生祭典への参画を通じ、これまで専門学校だけでは不可能だった新たな広報活動が展開出来た。

1-2-5. 多様なニーズに対応する人材育成教育システム

京都美術工芸大学への（仮称）建築学科の開設、（仮称）大学院建築研究科の開設にむけて、日本開発構想家研究所とコンサルタント契約を結び、実現に向けて文部科学省との事前相談を行なった。その結果、大学の完成年度を待ち平成28年度の開設に向け構想、順備を進めることとなった。

2. 京都美術工芸大学の取組

2-1. 概況

京都美術工芸大学は、平成23年10月24日付けで、文部科学大臣より、学校法人組織変更認可と大学設置認可を受けたところである。

認可の留意事項として、「設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるように努めること」との意見が付された。

これにより、開学初年度である平成24年度は、新設大学としての設置計画の確実な履行に努めることを重要課題とし、次の諸事業を実施した。

2-2. 各部門の事業

2-2-1. 管理運営部門

- (1) 大学の重要事項を審議するため、学校教育法第93条に基づき教授会を置き、学内の円滑な管理運営を図るために教授会の下部組織として、下記の専門委員会を設け、確実な運用を図った。開催状況は次のとおり。

教授会

平成24年5月16日・6月20日・7月18日・8月22日・9月19日・10月17日・11月14日・12月19日・平成25年1月23日・2月26日・3月6日・3月8日・3月21日・3月27日

大学運営会議

平成24年4月18日・6月20日・平成25年3月21日

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

平成24年4月18日・5月16日・平成25年3月13日・3月21日

教員個人評価委員会

平成24年5月16日

自己点検・評価委員会

平成24年4月8日・平成25年3月11日・3月21日

教学委員会

平成24年5月9日・5月30日・7月18日・9月19日・10月17日・11月28日・12月19日・平成25年1月29日・3月5日・3月8日・3月11日・3月13日・3月15日・3月21日

教員人事委員会

平成24年5月16日

キャリア委員会

平成24年5月23日・7月18日・10月24日

入試委員会

平成24年4月18日・4月23日・5月9日・6月20日・8月22日・9月19日・10月5日・10月17日・10月24日・11月2日・11月14日・11月21日・12月5日・12月19日・平成25年1月29日・2月12日・3月5日・3月21日

学術情報委員会

平成24年5月23日・10月17日・平成25年3月21日

ハラスメント防止対策委員会

平成24年10月24日・10月31日・12月12日・12月26日・3月14日

- (2) 本学の教育研究水準の向上をはかり、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織、運営並びに施設、設備について自己点検・自己評価を実施した。
- (3) 4名の教員の辞任と1名の就任辞退があったが、AC教員審査を受け専任教員の補充に努めた。

2-2-2. 教学部門

- (1) 大学設置計画に基づく教育課程の確実な運用に努め、24年度は計画どおり実施できた。さらに教育課程充実のため、一級建築士受験関連科目の20科目を追加した。
- (2) ファカルティ・ディベロップメント（FD）推進委員会によるFD活動や、学内研修会・研究会を開催し、授業内容や方法の改善を図るための、組織的な取組みを進めた。
FD推進委員会による「授業改善のための学生アンケート」を3回実施し、授業改善に努めた。

2-2-3. 学術・情報部門

- (1) 学術情報委員会と連携し、図書資料の有効利用を促進するため、美術工芸分野を中心とした学術図書等の充実に努めた。
- (2) 学術情報委員会が中心となって、研究活動を進め、研究紀要の発行準備を行なった。

2-2-4. 学生支援部門

- (1) 教員研究室に学生相談室を設け、オフィスアワーを活用した、学生からの相談に対応できる体制を整えた。

- (2) 京都美術工芸大学成績優秀者に対する特待奨学金規程を定め、新入生を対象にした学費減免特別奨学金選考試験を実施した。

2-2-5. キャリアサポート部門

「キャリア開発プログラム」を企画運営し、1年次から段階的にキャリア形成支援を行う一環として、24年度は、新入生に対して「進路意識調査」を実施した。また、25年度から実施予定の「二級建築士資格取得支援講座」の準備を進めた。

2-2-6. 入試・広報部門

- (1) 入学者選抜は、計画どおり、AO入試、推薦入試（指定校推薦含む）、一般入試を実施した。また、大学入試センター試験の26年度実施に向け、所要の手続を行った。
- (2) 平成24年度の広報活動は、昨年の状況を踏まえ、広報媒体、高校訪問、会場ガイダンス等広報活動を強化したことにより、資料請求者数、オープンキャンパス参加者とも急増した。その結果、平成25年度入学者の定員充足率は、0.7を上回った。

2-2-7. 地域連携

社会活動やインターンシップを円滑に進めるため、「丹波漆」の産地である京都府福知山市と「文化芸術振興協定」を締結した。

3. 京都建築大学校の取組

3-1. 概況

平成3年開校し平成19年に京都建築大学校に校名変更し現在に至る。

開校当初より「二級建築士・木造建築士・2級建築施工管理技士」の国家資格を在学中に取得出来る独自のシステム（本科2年制＋専科1・2年制）を構築し同資格の取得実績は全国トップを維持している。

平成21年4月に開学した建築学科（高度専門課程）は転学生を含め第一期生137名の卒業生を送り出した。

3-2. 各科の報告

3-2-1. 建築科

毎年、建築科では建築についての勉強が未経験である者を対象としたカリキュラムを用意している。実学に則した科目を習学し、基礎からの知識の積み重ねを行なっている。また建築士受験に必要な指定科目を履修する事で、建築科卒業時に二級建築士の受験資格を得る、まさに本校の根幹を成す科である。平成24年度は、23年度からの学則改定に伴い、2年生のカリキュラムも変更した。具体的には1年生で履修した「基礎造形」科目で得た知識をさらに伸ばす為の「空間デザイン」授業の実施や、各種資格講座や受験説明会も行なった。

3-2-2. 建築学科

平成21年度に新設された建築学科は予定通り平成24年度に完成年度を迎え、初めて卒業生を社会に送り出した。卒業生は『高度専門士号』を授与され、規定の要件を満たせば2年間の実務経験の後に一級建築士の受験資格が取得でき、建築系大学院に進学することが可能になるなど、大学建築学科の卒業生と同様に扱われる。

4年制の建築学科では建築関連の専門知識・技術の習得および各種関連資格取得に加え、総合的な建築的課題の理解と解決へと繋げられるようなカリキュラムを構築している。建築学科の特徴でもある4年次の少人数制ゼミ授業は、論文系4・建築設計系8・インテリア系3の全15ゼミを開講しており、実務者の教員を中心にこれだけの多彩なゼミを建築系だけで展開しているのは全国的に見ても珍しく、全国的な建築設計コンペ等でも毎年入選を果たすなどの実績も重ねており学生のモチベーションアップと自信になっている。

3-2-3. 専科

専科・建築学科の3,4年生を対象とした建築士講座及びインテリアプランナー講座の資格合格（最終合格）実績は以下の通りである。

二級建築士試験合格者数	174名	(-55名)	合格率	35.4%	(-7.3)
木造建築士試験合格者数	153名	(-48名)	合格率	37.8%	(-6.4)
インテリアプランナー試験	29名	(-3名)	合格率	25.2%	(+9.2)

(括弧内は前年比)

二級建築士試験の合格率は、全国合格率(23.1%)を上回っているものの、21年度の51.9%をピークに22年度以降の3年間減少を続けている。建築士講座の講習を担当した教員の感觸としては、受講生の建築士資格を取得する意欲も年々低下している。学科講習における講習内容および教材の改良、設計製図講習の少人数担当制の採用等、合格率の維持を目的とした改善・改良を試みてきたが、講座としての対応だけでは合格率低下を食い止めることができなかった。学院全体での協力が求められる。

インテリアプランナー試験については、KASD独自の講習としては2年目であり、講習内容の改善を進めた結果、合格率を上げることができた。次年度はさらに講習内容の改善に努めたい。

3-2-4. 放送大学（教養学部）

学士号取得率（過去5年間の平均取得率95%）を更に精度を高める為、各クラス毎のカリキュラムの中に教養科目として組み入れスムーズに受講できるように各科目ともチューターを配置し受講者全員の単位取得状況を絶えず開示し必要に応じ個別面談を実施し、卒業要件を満たす指導を徹底している。

〔平成24年度 放送大学（教養学部）学士号取得者は〕
〔放送大学受講生351名のうち320名の実績となった。〕

3-2-5. 就職

就職活動のサポートとして10月より3月迄、計6回のシリーズで就職ガイダンスを実施し学生のスキルアップをはかり、又、有力企業の校内説明会を開催した。

就職氷河期の再来といわれる厳しい中、大手住宅メーカーを中心に中堅ゼネコン、不動産業界を含む建設産業界に設計職、施工管理職、技術職の本採用として前年に引続き97.5%と高い就職率となった。

4. 京都伝統工芸大学校の取組

4-1. 概況

開校後18年目となる今年度は、2年制課程155名、専攻科5名（うち2名ブータン留学生）の入学生を迎え、教育内容と就学環境そして就職実績の充実に引き続き取り組んだ。

教育内容、就学環境の充実を図るべく今年度1年生は実習内容の類似性が高い漆工芸専攻と蒔絵専攻を一体とした漆工芸専攻に統合して実習を行なった。

卒業生は高度専門課程33名、2年制課程92名、専攻科7名の計132名であった。

就職においては就職希望者68名のうち64名（94%）が関連分野の会社へ就職を果たした。（その他独立・進学者が31名）

国際交際の取組みにおいては、これまでのイタリアに加えフランスのエコールブール国立工芸学校と交換留学や作品の相互展示（合同展）の交流事業を行なった。

また、地域貢献等課外事業では恒例の「秋の学生作品展」を今年度からKYOBIが加わり3校合同開催の学園祭として「2012松葉祭」、学生の成果を発表する「卒業修了制作展」、「清水寺作品展」の開催、そして仏像彫刻専攻の学生が東北大震災で被害を受けた陸前高田の流木松を用いて制作した大日如来坐像を清水寺へ奉納し、開眼法要が執り行われた。

新たなとりくみとして京都市からの依頼により、同じく陸前高田の流木松を用い東北の被災者の鎮魂、慰霊、復興支援の願いを込め小仏を制作し京都市へ納めた。

4-2. 伝統工芸学科充実のとりくみ

4-2-1. 実技・実習等の充実強化

実習内容、カリキュラムについては4-2-2.に記載の「漆工芸専攻と蒔絵専攻の統合」、「和紙工芸1、2年生のカリキュラム」について変更を行った。

和紙工芸については紙漉き実習の充実を図る為カリキュラムを一部変更し、新2年生の前半は綾部にて紙漉き実習とし、後半は本校での加工実習を行なうこととした。（当初は2年生1年間を通じて本校での加工実習であった）

また、木彫刻専攻の2、3、4年生の彩色授業については今年度より加悦徹先生に指導をいただき6月から7月にかけて9日間集中で行なった。

4-2-2. 新「漆工芸専攻コース」の統合

漆工芸と蒔絵専攻の統合については、1年半をかけて検討を行ない平成24年度入学生から両専攻を統合して、漆工芸（髹漆・蒔絵）コースとして新たなカリキュラムでスタートした。2年生以上の在学生は従来どおりの専攻コースを継続した。

4-2-3. 国際視野で人材育成強化

1. フランス交流事業

経 緯
2011年10月京都府山田啓二知事様に立会いのもと ◎学校法人二本松学院とエコール・ブール国立工芸学校と「工芸技術にかかる人材育成教育に関する連携協定」締結 ◎(財)京都伝統工芸産業支援センターとアトリエ・アールド・フランス(AAF)は「日仏両国における工芸家の市場開拓支援のための連携協定」締結

2. フランス エコール・ブール国立工芸学校との交換留学

①エコール・ブール国立工芸学校から来日
日 時 平成24年10月22日(月)～11月11日 3週間
場 所 TASK本校にて
留学者 5名 講師 エストラード ギヨーム工芸学科講師/彫金
内 容 専門実習 漆工芸、仏像彫刻、金属工芸 書道、日本画、茶道、京都・奈良研修

②TASK生がフランスへ渡仏
日 時 平成24年11月11日～12月2日 3週間
場 所 フランス エコール・ブール国立工芸学校にて
留学者 5名
内 容 造形授業 モデラージュ 専門実習 金属工芸、木彫刻、マーケットリー 工房・企業視察(陶芸等)

3. 合同作品展関係

①フランス エコール・ブール国立工芸学校との合同作品展「出会い」
パリエコール・ブール国立工芸学校とTASKとの合同展「出会い」の開催
日 程 2012年11月24日から12月3日
場 所 パリ「Parc Floral」 16 route Champ de Manoeuvre
内 容 TASK卒業・修了作品 30点、エコール・ブール国立工芸学校の 作品30点

②フランス エコール・ブール国立工芸学校との合同作品展「共鳴」
パリエコール・ブール国立工芸学校とTASKとの合同展「共鳴」の開催
日 程 2013年2月28日から3月10日
場 所 京都伝統工芸館 (烏丸三条)
内 容 TASK卒業・修了作品 30点、エコール・ブール国立工芸学校の作品30点

4. アトリエ・アール・ド・フランス関係

ルーブル美術館美術館逆さピラミッドアーケード内「Culturel du louvre」にて 作品展示
展示会名 : 「Salon International du Patrimoine Culturel」 (国際文化遺産展覧会)
会 期 : 2012年11月8日(木)～11日(日)
会 場 : ルーブル美術館 逆さピラミッドのアーケード Culturel du louvre
内 容 : 本校の講師・卒業生作品12点
主 催 : アトリエ・アール・ド・フランス、(財)京都伝統工芸産業支援センター

5. イタリア交流事業

①イタリアへの卒業・修了作品出展
展示会場: リッソーネ市 現代美術博物館
期 間: 平成25年3月26日(火)～4月11日(木)
主 催: A.P.A. Confartigianato イタリアアパコンファルティナジャートミラノモンツァブリアンツァ協会
内 容: TASK作品 30点 (卒業修了制作展にて選定)

②ミラノ・サローネへ作品出展
上記のリッソーネ市現代美術博物館での展示会の開会式に ADI (イタリア工業デザイン協会) の関係者が来場。作品に大変感激され、ミラノ・サローネにおいて ADI が主催する会場への出展を招待された。
展示会場: ミラノ・サローネ ADI 主催の展示会場 (EAST)
期 間: 平成25年4月9日～14日

内 容：京都伝統工芸大学校 TASK 作品 24点

ヴェローナ美術大学/Accademia di Belle Arti di Verona

デザイン&コミュニケーション ISIA フィレンツェ大学/ISIA Firenze

ミラノ ポリテックニコ大学/Politecnico di Milano

フィレンツェ大学/Universit degli Studi di Firenze.

イタリアの4大学とのジョイン展示

主 催：ADI イタリア工業デザイン協会

1956年設立、日本のグッドデザイン賞を決める日本デザイン振興会も

ADI を参考に設立されたとのこと。

ADI 関係者の感想

日本の伝統工芸は、実はモダンで有ると云う認識を持たれたようです。デザイン的に違和感がなく今のイタリアの生活空間に共存できると新たな考えを持たれたようで、通常の展示物と比較して日本の伝統工芸品にはたいへん新鮮さを感じられていました。1つの素材で物作りしたもの、そして、その完成度を上げることが、どれだけシンプルに人の目に写り共感を持たせるかを認識させたようです。

4-2-4. 資格取得

陶芸専攻においては、以前から資格試験（3級、2級）を設置し、陶芸士の認定を行ってきた。木工芸、金属工芸については、工芸士認定試験の要綱を整備し実施した。その他の専攻では授業内での取組姿勢や課題制作、卒業修了作品を評価基準として認定を行った。

4-2-5. 大学との調整

京都美術工芸大学の開学にともない、平成24年度の高度専門課程の一時募集停止を行った。大学のカリキュラムに合わせ、授業時間を1コマ50分から90分へと変更した。

4-3. 地域貢献等課外の取組み事業

4-3-1. TASK・KYOBI・KASD 合同の学園祭「松葉祭」

これまでの学生作品展を今年度より TASK・KYOBI・KASD 合同の学園祭「松葉祭」として実施した。

実施内容

TASK・KASD 合同の学園祭として実施

期 間： 平成24年10月26日（金）から28日（日）

場 所：	本校 2号館、3号館、4号館、8号館
内 容：	作品展示（各専攻の実習作品、デザイン演習・一般教養作品、講師作品） 各専攻において工芸体験、制作実演、作品販売を実施 特別展示 仏像彫刻専攻による「小仏」 （共同制作）金属工芸専攻による「銀杏シャンデリア」 舞台イベント バンド演奏、日本舞踊、地元和太鼓ライブ（小山太鼓） お茶席、模擬店
来場者：	3日間で合計 2,019名（23年度 1,443人、22年度 1,300名）

4-3-2. 京の伝統工芸新人作品展「第17回卒業修了制作展」

2、3、4年間の成果を発表するため展示会を開催

実施内容

期 間：	平成25年2月15日～24日
場 所：	京都伝統工芸館 4, 5, 6階
内 容：	卒業修了作品 192点 特別展示 仏像彫刻専攻 陸前高田松原の被災松を小仏に再生 （共同制作） 金属工芸専攻 銀杏シャンデリア デザイン特修 さよなら人魚姫
来場者	約2,234名（23年度 2,932名、22年度 2,586名）
備 考	近畿経済産業局長賞、京都府知事賞をはじめ55点の賞を交付 APA アートディレクター ガブリエラディーチェが来日、 卒業修了作品の中から30点を選出、イタリアへ出展
同時開催：	「京の伝統工芸新人作品展」 出展作品数 77点
会 場	京都伝統工芸館 1階
期 間	2月15日～3月26日
<p>連携協定を結んでいるパリのエコール・ブール国立工芸学校より校長ら5名が来日（2月24日）。出展作品より30点を選出、28日から京都伝統工芸館での合同展「共鳴」にて展示。</p> <p>来日メンバー エスペル（校長）、ローゼンヴェルグ（建築）、ラフィット（金属） フェルメイ（プロダクトデザイン）、高村佳園（通訳）、 デュデュボア（校長夫人3/1より合流）</p>	

第4回清水寺作品展

清水寺 大黒天像の修復をご縁に、清水寺境内の経堂において本校の作品展を開催
日 時： 平成24年4月29日（日）～6日（日） 8日間
場 所： 清水寺 経堂
内 容： 卒業・修了作品展示 40点 共同制作作品展示（仏像彫刻専攻：聖観音像） 伝統工芸の実演 2名/日
期間中の来場者数 13,520名（昨年 13,043名）
学生は校外研修の一環として受付、接客等の業務を経験（5名/日・延40名）

4-3-3. 大日如来座像の制作

1. 陸前高田大日如来坐像奉納

陸前高田での法要
平成23年8月より制作を開始、完成した大日如来坐像を陸前高田でお披露目し大西英 玄住職による法要が執り行われた。
日 時 平成24年4月26日（木）9：00～16：00
場 所 陸前高田市スーパーマイヤ滝の里店 特設会場
参加者 新谷理事長 清水寺大西英玄住職 須藤先生 TASK職員 仏像の学生
京都清水寺本堂へ奉納
多くの参拝者に見守られながら清水坂を巡行し本堂へ、除幕式の後、東日本大震災の犠 牲者の鎮魂を祈り森清範貫主より入山開眼法要が執り行われた。
日 時 平成24年5月1日（火）10：30～12：00
場 所 清水寺本堂
参加者 山田知事 門川市長他 学校関係者

2. 陸前高田松原の被災松を小仏に再生

制作期間： 平成24年8月～平成25年1月 6ヶ月間
制作指導： 仏像彫刻専攻 須藤 光昭先生
制 作： 仏像彫刻専攻 1、2、3、4年生
展 示： 学園祭「松葉祭」（10月28日～10月30日） 第17回卒業修了制作展（2月15日～24日）

経緯	7月 3日	門川市長 TASK を視察 小仏の制作を始める
	8月 6日	門川市長を訪問 小仏20体をお披露目
	11月 8日	陸前高田市を訪れ戸羽太市市長に小仏20体を手渡す
	2月25日	京都市へ150体を納める

4-3-4. 平成24年度 京都府との産官学連携プロジェクト

①和楽プロジェクト

小学館の雑誌「和楽」とのコラボレーションによる伝統工芸の紹介
雑誌「和楽」の8・9月号に4ページにわたり本校の特集を紹介 「未来の工芸を担う若き才能に注目！」と題し、卒業生や在校生のインタビューや作品を掲載。
和楽体験ツアー
9月29、30日「和楽」協賛による「1泊2日工芸体験プラン」の実施 (会費1万円、11名の参加) 体験科目 陶芸、金工、竹工芸、仏像、木工
編集部×学生セッション
9月12日 雑誌「和楽」の副編集長高木史郎さん テーマ 「これからの日本の工芸に必要なものは何なのか」 参加者 120名
デザインディレクター立川裕大氏
11月19日(月) テーマ デザインの今、今後目指すべき新しい職人の姿とは？ 会場 3号館ホール 参加者 120名

②内田洋行とのコラボレーションによる商品開発

9月18日 内田洋行の紹介とプロダクト見学 (3校 55名参加)
11月 7日 学院紹介と授業見学、ワークショップ (3校 4グループ : 54名参加)
12月12日 内田洋行へのプレゼンテーションと今後の取り組み (KASD, KYOBI, TASK) TASK が内田洋行賞を受賞、3校の学生約140名の参加、次年度も継続予定

③京都北山マールブランシュとの共同プロジェクト (TASK、KYOBI 作品製作)

8月 3日	マールブランシュによる「コンセプト」レクチャー (TASK 120名参加)
1月30日	作品・プレゼンシートの提出24点 (TASK22, KYOBI2)、1次審査
2月 1日	本選 (10作品のプレゼン) KYOBI 最優秀賞、TASK5名入賞、 学生約120名参加
	伝統工芸館展示 (2月15日～3月11日、卒展を含む)
	マールブランシュ清水坂店にて展示 (3月12日～19日)

4-3-5. ブータン王国留学生の受け入れ

平成23年11月19日、ブータン国王夫妻 京都伝統工芸館ご見学の折、留学生2名の受け入れについて要望を受け、平成24年4月29日ブータン王国から2名 (Thukten Wangchuk, Thinley Norbu) の留学生を受け入れた。受け入れ期間は当初の予定は1年であったがブータン王国からの要請により2年間となった。

5. 二本松学院 財務報告

5-1. 財務の概要

平成24年度決算の概要

単年度の収支バランスを「消費収支計算書」で見ると、学費収入など正味の収入合計である帰属収入合計は学院全体で23億6,113万円、人件費や減価償却費を含む教育研究・管理経費等の消費支出合計は21億5,918万円となり、その差額（帰属収支差額）は2億195万円のプラスとなった。

また、当年度基本金組入額の合計は、6億5,341万であった。これは、昨年度未払金として計上した施設等代金の支払い、現物寄付等による増加を組入れたものであり、引き続き教育環境の充実が重点的に図られているといえる。

5-2. 各計算表

5-2-1. 消費収支計算書

平成24年度の消費収支計算書を（表1）として後掲する。

今期、帰属収入は、予算に比べ約2,395万円予算を上回ったが、これは、寄付金（現物寄付金）、事業収入（寮費収入）、及び諸雑収入の増加によるものである。なお、平成23年度との比較では約1,282万円の減額となっている。

帰属収入構成比率中、学生生徒等納入金が20億3,751万円と最大（約86.3%、昨：88.0%）で、以下、事業収入（約9.3%、昨：9.0%）、寄付金（約1.4%）、雑収入（約1.3%）等と続く。

また、基本金組入額については上述の通りで、第1号基本金の組入れが6億5,341万円となっている。

以上より、帰属収入から基本金組入額を差引いた当年度消費収入合計額は17億772万円となった。

支出については、総額で21億5,918万円となり、予算を1億827万円下回る執行となった。

内、人件費は6億6949万円で、消費支出中約31.0%を占めている（昨：5億9,758万円、約29.9%）。

また、教育研究経費は7億6,047万円の執行で構成比が約35.2%（昨：6億6,883万円、約33.5%）、管理経費は6億8,486万円で構成比約31.7%（昨：7億2,685万円、約36.4%）となり、両経費の比率は、昨年度と逆転し、目標であった管理>教研の構図は改善された。今後は業務の効率化を図り、この構図を変えることなく、支出削減を進める必要があるだろう。

消費収入から消費支出を差引いた結果、学院全体での当年度消費支出超過額は4億5,145万円となり、昨年度（1億2,866万円）に引続き支出超過が続いている。これは、大学設置経費（施設・設備関係等）他の第1号基本金組入れが主な要因である。

以上より、昨年度末までの消費支出超過額（3億5,172万円）から基本金取崩額（1,073万円）を差引いた額に当年度超過額を加えた7億9,244万円が来期へと繰越されることとなる。

※ 金額については千円以下切捨て、比率については少数第2位を四捨五入。

（表1）消費収支計算書

（単位 円）

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金	2,037,290,000	2,037,513,715	△ 223,715
手数料	24,020,000	18,856,250	5,163,750
寄付金	31,101,000	32,590,789	△ 1,489,789
補助金	620,000	617,291	2,709
資産運用収入	22,210,000	20,947,874	1,262,126
資産売却差額	440,000	249,814	190,186
事業収入	199,490,000	219,154,900	△ 19,664,900
雑収入	22,010,000	31,205,977	△ 9,195,977
帰属収入合計	2,337,181,000	2,361,136,610	△ 23,955,610
基本金組入額合計	△ 692,150,000	△ 653,414,158	△ 38,735,842
消費収入の部合計	1,645,031,000	1,707,722,452	△ 62,691,452
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	667,200,000	669,497,736	△ 2,297,736
教育研究経費	900,930,000	760,476,976	140,453,024
管理経費	653,646,000	684,861,107	△ 31,215,107
借入金等利息	473,000	472,323	677
資産処分差額	210,000	43,872,923	△ 43,662,923
[予備費]	45,000,000		45,000,000
消費支出の部合計	2,267,459,000	2,159,181,065	108,277,935
当年度消費支出超過額	622,428,000	451,458,613	
前年度繰越消費支出超過額	351,728,797	351,728,797	
基本金取崩額	0	10,737,802	
翌年度繰越消費支出超過額	974,156,797	792,449,608	

5-2-2. 資金収支計算書

平成24年度における諸活動及び支払資金の収支顛末を表す資金収支計算書は、(表2)のとおりとなる。

当期単年度の資金収入に前年度繰越支払資金(43億528万円)を加えた資金収入総額は、64億5,860万円である。

当期単年度資金収入は、21億5,331万円であり、昨年度(23億6,033万円)に比べ2億702万円の減少となった。主な原因としては、学生減少に伴う納付金収入減及び学納金徴収方法の変更(一括納入→前後期分納可能)による前受金減少等があげられる。

一方、支出の部では、支出合計から次年度繰越支払資金を除いた単年度支出は30億4,950万円となり、予算と比較して1億6,347万円減となった。この結果、次年度に繰越される支払資金は34億909万円となる。

昨年度と比較して支出金額が大幅に増加した原因としては、有価証券の購入(5億)や、(財)京都伝統工芸産業支援センターよりの3号館購入、また未払金の支払い等により例年に比べ多くのキャッシュが支出された事による。

※ 金額については千円以下切捨て、比率については少数第2位を四捨五入。

(表2) 資金収支計算書

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	2,037,290,000	2,037,513,715	△ 223,715
手数料収入	24,020,000	18,856,250	5,163,750
補助金収入	620,000	617,291	2,709
資産運用収入	22,210,000	20,947,874	1,262,126
資産売却収入	440,000	447,130	△ 7,130
事業収入	199,490,000	219,154,900	△ 19,664,900
雑収入	22,010,000	31,205,977	△ 9,195,977
前受金収入	1,723,000,000	1,639,038,800	83,961,200
その他の収入	168,660,643	157,331,927	11,328,716
資金収入調整勘定	△ 1,972,139,200	△ 1,971,796,151	△ 343,049
前年度繰越支払資金	4,305,287,464	4,305,287,464	
収入の部合計	6,530,888,907	6,458,605,177	72,283,730
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	667,200,000	669,497,736	△ 2,297,736
教育研究経費支出	578,710,000	535,338,772	43,371,228
管理経費支出	619,292,000	550,806,355	68,485,645
借入金等利息支出	473,000	472,323	677
借入金等返済支出	30,000,000	30,000,000	0
施設関係支出	194,505,000	192,905,000	1,600,000
設備関係支出	29,950,000	24,188,602	5,761,398
資産運用支出	578,000,000	584,700,189	△ 6,700,189
その他の支出	479,293,266	473,541,257	5,752,009
[予備費]	45,000,000		45,000,000
資金支出調整勘定	△ 9,440,400	△ 11,943,516	2,503,116
次年度繰越支払資金	3,317,906,041	3,409,098,459	△ 91,192,418
支出の部合計	6,530,888,907	6,458,605,177	72,283,730

5-2-3. 貸借対照表

貸借対照表の概要は下記（表3）のとおり。

資産総額は149億2,731万円で、前年度の154億8,812万円と比べ5億6,081万円（約3.6%）減少となった。増加、減少の主な要素は、それぞれ：有価証券の購入及び引当資産の積増し（増加）、減価償却及び現預金の減少（減）が挙げられる。

一方、負債総額は18億4,503万円で、昨年と比べ7億6,277万円（約29.2%）の減少となった。主な理由としては、学納金納入方法の変更に伴い前受金が減少した事、また、昨年度末、未払金となっていた新設大学設置関連の精算がなされた事による。

（表3）貸借対照表

（単位 円）

資 産 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
固 定 資 産		11,516,502,141	11,174,947,618	341,554,523
有形固定資産		10,253,378,856	10,396,306,300	△ 142,927,444
土 地		1,841,821,220	1,841,821,220	0
建 物		7,455,347,848	7,513,204,174	△ 57,856,326
構 築 物		460,823,709	497,948,023	△ 37,124,314
教育研究用機器備品		153,958,422	172,576,613	△ 18,618,191
その他の機器備品		240,318,737	229,240,490	11,078,247
図 書		77,945,577	111,686,250	△ 33,740,673
車 輦		23,163,343	29,829,530	△ 6,666,187
その他の固定資産		1,263,123,285	778,641,318	484,481,967
電 話 加 入 権		676,312	676,312	0
施 設 利 用 権		1,796,274	2,006,830	△ 210,556
ソ フ ト ウ ェ ア		42,042,522	52,483,326	△ 10,440,804
有 価 証 券		529,880,000	29,880,000	500,000,000
長 期 前 払 金		0	852,602	△ 852,602
長 期 貸 付 金		0	96,449,850	△ 96,449,850
保 険 積 立 金		300,778,075	274,077,886	26,700,189
学院整備引当資産		200,000,000	150,000,000	50,000,000
車両更新準備引当資産		16,000,000	8,000,000	8,000,000
保 証 金		18,080,000	68,969,630	△ 50,889,630
預 託 金		50,111,050	0	50,111,050
出 資 金		10,000	10,000	0
同窓会等預り資産		103,749,052	95,234,882	8,514,170
流 動 資 産		3,410,808,012	4,313,179,507	△ 902,371,495
現 金 預 金		3,409,098,459	4,305,287,464	△ 896,189,005
未 収 入 金		856,951	1,051,643	△ 194,692
短 期 前 払 金		852,602	6,840,400	△ 5,987,798
資産の部合計		14,927,310,153	15,488,127,125	△ 560,816,972
負 債 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
固 定 負 債		103,749,052	115,234,882	△ 11,485,830
長 期 借 入 金		0	20,000,000	△ 20,000,000
同窓会等預り金		103,749,052	95,234,882	8,514,170
流 動 負 債		1,741,290,211	2,492,576,898	△ 751,286,687
短 期 借 入 金		20,000,000	30,000,000	△ 10,000,000
未 払 金		5,103,116	411,834,266	△ 406,731,150
前 受 金		1,639,038,800	1,970,959,200	△ 331,920,400
預 り 金		29,026,895	25,502,877	3,524,018
預 り 保 証 金		48,121,400	54,280,555	△ 6,159,155
負債の部合計		1,845,039,263	2,607,811,780	△ 762,772,517
基 本 金 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
第1号基本金		13,742,835,028	13,100,158,672	642,676,356
第4号基本金		131,885,470	131,885,470	0
基本金の部合計		13,874,720,498	13,232,044,142	642,676,356
消 費 収 支 差 額 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増△減
当年度消費支出超過額		792,449,608	351,728,797	440,720,811
消費収支差額の部合計		△ 792,449,608	△ 351,728,797	△ 440,720,811
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計		14,927,310,153	15,488,127,125	△ 560,816,972